

「H A C C Pに沿った衛生管理の制度化とG A Pの重要性について」

開催概要

日 時：令和2年2月26日(水)13:30~17:00(場所 名古屋能楽堂)

参加者：6次産業化を行う農林漁業者、農業団体等 64名

主 催：東海農政局

食品衛生法が平成30年に改正され、H A C C Pに沿った衛生管理の実施が制度化されたところです。これは、6次産業化を行う農林漁業者等も、すべからく対象となることから、余裕をもって準備に当たっていただきたく、今般説明会を開催することとしました。



第2部では、リスク管理の有力な手法であるG A Pについて、より良い農業経営を実現する取り組みであることからG A Pの重要性を説明いただきます。

第1部「食品衛生法の改正に伴う「H A C C Pに沿った衛生管理」の制度化について」

制度を所管する保健当局、コンサルタント、県H A C C P導入認定者からH A C C Pの講演等が行われました。

第2部「農業生産のG A Pによるレベルアップについて」

(1) G A Pの導入効果について

(有)ひるがのラファノス 品質管理責任者本部長 奥村竜太 氏)

国際水準のGlobal G. A. P. 認証を「だいこん、にんじん、トマト」の複数品目で取得し、経営に取り入れている。

経営におけるG A Pの位置づけは、「悪くない農業を行う」が適切で分かりやすく、「持続可能な農場運営の基礎」、「やらなければいけないこと」がベース。G A Pに取り組んだからと言って付加価値がつくものではなく、G A Pとは別に生産者の拘りを農産物に付加して競争すべきもの。G A Pには「G A Pをする」と「G A P認証をとる」との考え方があり違いを理解することが重要。G A Pの話になると認証を考えてしまい費用と手間からなかなか踏み切れず、結果何もしないことになりがち。費用を掛けて認証をとるのではなく、G A Pの活動を少しずつ取入れられればG A Pをすることは難しくない。G A Pの効果を具体的に想像しにくいいためG A Pに費用と手間を掛けにくく、普及が進んでいないと考える。



〔講演する奥村氏〕

実際に認証取得を目指したのは、だいこんの生産・加工を行う中、I S O 9 0 0 1による品質管理を行っていたことが評価され、取引を開始した流通事業者から、今後はG A P認証農産物のみを取扱っていくとの話を受けたのがきっかけ。“現状の維持”か“G A Pの取得”を想像し、取得後の出荷先との関係や輸出を見据えて取り組む農業経営の未来が楽しそうと思った。生鮮品の取扱いにも便利な管理ツールで、輸出のパスポートとなり得るGlobal G. A. P. 認証取得を決意した。取得まではJ G A P指導員教育研修の受講や県内既存認証農場の

視察、コンサルティングによる改善を4度重ねるなど1年半程度をかけて書類や設備を整え、平成30年10月に認証を取得した。認証取得のタイミングでトイレや資材庫などの社内環境設備も行ったことから、初回審査費用70万円を加えた13百万円超を要する投資となった。毎年必要となる維持審査には、審査費用70万円に残留農薬検査などを加えた百万円程度の費用と時間も必要となる。

取得後の活動では、社内ルールに基づき継続的な改善を取組む中、社内では作業効率の向上や従業員の意識改革などの企業としての成長も現れ、農作業事故防止にもつながり、対外面では商談件数が増加する効果も現れた。

今後は、農場におけるISO2200の認証取得に向けた取組みや、岐阜県内の若手農業経営者が集い自ら生産した農産物の卸を営む(株)みのひだ社中の代表取締役社長を務めている。(株)みのひだ社中では、各々の農場においてもまずは「GAPをする」を取入れた活動を展開していきたい。

(2) 事業者からみたGAPの重要性について

(イオンリテール(株) 東海カンパニー 商品統括部 農産グループ マーチャンダイザー 宮地朗人 氏)

イオングループのイオンアグリ創造(株)において従業員自ら農業生産に取組み、全国20農場、250ha超のほ場においてGlobal G. A. P. による農場運営を行っている。これら農場のGAP担当スタッフよりバイヤー向け社内GAPセミナーを実施。国際基準のGAP認証を学び、必要性を理解することでイオンの農産物の仕入れ基準のひとつとして商談時にバイヤーが活用し、お客様に安心して提供する信頼の裏付けのひとつとなっている。お客様へもGAPを理解していただくため、Global G. A. P. Number、GGNラベルを使用した啓蒙活動に取り組んでいる。



[講演する宮地氏]

GAPは農業活動を改善することで、より良い農業経営を実現する取組みの手段であって目的ではない。農場にある限りある経営資源をいかに有効に活用するかを考えることがGAPの本質。起こったら困ることなど農場に無限にあるリスクを考えない経営者はいないが、優先順位の高いリスクを洗い出すことにも非常に有効な手法である。

GAP導入後の効果には、資材の不良在庫や労災事故が減ったなどの直接的効果と、従業員の自主性の高まりや組織内の情報共有が円滑になったなどの間接的効果が挙げられる。GAPは強い組織をつくるためのスタートライン、経営の安全と信頼を高めることにもつながる。

終了後、講演者と参加者との交流において名刺交換等を行いました。また、参加者へのアンケート結果には、「HACCPやGAPを考える良い機会になった」、「小規模でも考え方や意識を高く持って取組むことが大事」、「JGAP認証は取得済み、次のステップを考える参考となった」、「大変勉強となり、是非取得を考えたい」などの意見をいただきました。